

消防訓練実施 “すわっ！ 火事だ にげろ！！”



9月27日（火）午後、瀬戸会館と瀬戸児童館の「合同消防訓練」を行った。当日は、瀬戸会館及び瀬戸児童館の職員8名、児童及び保護者40名が参加した。午後3時30分、「瀬戸会館の調理室から出火」、発見者は大声で火災発生を職員及び館内にいる人に知らせるとともに、すぐ近くの消火器で初期消火。同時に他の職員が館内緊急放送にて避難指示。即、新居浜市南消防署及び瀬戸児童館にも連絡。児童館でも子どもたちや保護者の避難が始まった。避難場所は、瀬戸会館前駐車場の建屋から遠い南詰めの一角。子どもたちも一生懸命駆けている。保護者も含め全員の避難を確認したところで、新居浜南消防署の署員より指導・講評があった。そのなかで「煙が一番恐ろしいので、低い姿勢が大事です」とか「非難のときには『お・は・し・も』を心がけてね」と、「おすな」「はしるな」「しずかに」「もどらない」ことの大切さをわかりやすく話してくれた。終了に際して職員の動き、館内利用者の避難の様子など「査察結果、良好！」の評価をいただいた。

避難訓練の後は、消火器の使い方を親子で実際に体験したり、消防車のいろいろな装備を手で触ったり、見学したりして、日頃の防火への備えや心構えの大切さを改めて学ぶいい機会となった。

秋空のもと 元気いっぱい

9月25日（日）は泉川小学校の運動会。校区のそれぞれの地域に割り振りされたテントが運動場を囲む。競技の開始時間までには、応援する家族でほぼ満席の状態になった。空には万国旗がはためく。運動場北側にある木立の間にも敷物が並び、弁当の包みがちょこんと座る。

開会式では校長先生から「勝つことも大事です。でも負ける経験も大事です。今日一日、自分が出場する競技に、応援に、全力を尽くしてください。」と挨拶があり、二人の児童代表は『「一人ひとりが主役になって、なかまを信じめざせ優勝！」をスローガンに、声を掛け合い、全力をつくして・・・』と誓いの言葉を述べた。

競技は全校児童による「ラジオ体操」でスタート。続いて5年生の「疾走」、2年生の「ころがせ！大玉」、振り付けもリズムカルで可愛い4年生の「手をたたけ」、とプログラムは進む。全校が赤と白の二組に分かれて応援を繰り返す。テントの中でも担任の先生が顔は走者を追いながら、身振り手振りで指揮をして、雰囲気は一段と盛り上がる。

競技の緊張から解きはなされて、何ととっても楽しみはお弁当。敷物に足投げ出して、動かす箸はいそがしかった。



瀬戸会館だより
平成23年11月号
新居浜市瀬戸会館
〒792-0821
新居浜市瀬戸町7-30
E-mail
seto@city.niihama.
.ehime.jp
TEL 0897
41-5859
(FAX 兼用)

11月公演

回転木馬

おはなし会

11月2日予定

10:40~11:00

瀬戸児童館

うんどうかいに海賊団！？

瀬戸児童館の運動会は、雨天順延で10月14日（金）になった。この日も空模様を気にしながらプログラムが進む。「ちびっこ海賊団」では、カモメが持っている金貨を1枚取り上げて、自分たちの宝箱に入れる、という競技。次の「めざせ海賊王」では、その宝箱の前に立ちふさがる井原先生が扮する海賊を剣で打ち負かして金貨一枚を取って帰る、というストーリー性のあるプログラムでとても楽しい。なかには海賊と戦うことに集中しすぎて、金貨を取らずに帰るというチビッコも。

絶えずマイクで呼びかけたり、目の前に展開される実況を放送しながらの進行でグランドは盛り上がる。それにしても道具類の準備や片づけに、競技と演技の指導に・・・と先生方は大奮闘！お疲れさまでした。

人権あらかると

ろうあ者とマンガ (1)

永井 ^{あきら} 哲

全国聴覚障害者連絡協議会事務局長

この日本において、マンガというものの膨大な量には驚かされる。このマンガというのが、若いうあ者には重要な意味を持っている。「マンガで言葉を覚えた」「マンガが情報源だった」と言う人が多い。今、社会にはさまざまな「文化」、「情報」があふれかえっている。テレビは一日中電波を流し続け、新聞や雑誌、いろいろな出版物は毎日多量に送りだされる。が、はたしてそのうちどれほどの量が、僕らろうあ者に届くのだろうか？

テレビにはほとんど字幕も手話通訳もついていない。ラジオやアナウンスは聞こえない。知らない人々は「文章なら普通に読めるじゃないか」と言う。が、それは違う。文章が苦手なろうあ者は多い。今ある文章は、「音声語の文章」であって、「手話の文章」ではない。音声語と手話とは、文法からして違うのだ。だから手話で育ってきた人々は「音声語の文章」を苦手としている。

こうしたなかで僕らろうあ者にとってなじみやすい文化の一つがマンガなのだ。マンガだって文章はある。でも、絵がある。「動き」がある。そして擬音がある。絵を見てある程度内容は把握できる。それを元に「ああ、この言葉はこういう意味なのか」とわかる。また、それぞれの「音」を知る。

パトカーだったか救急車だったのかサイレンが、「ピーポー」という音であることを、僕はマンガで知った。何代前だかの日本の首相がいつも「あー、うー」とうなっていることもマンガで知った。人の名前や地名など、固有名詞の漢字の読み方もたいていはマンガで知った。一般の人々の間でその時何が一番の話題になっているのかというようなことも、いつもマンガで教えてくれた。

『人権文化を拓く I』(オフィスプロシード) より 都合で一部割愛させていただきます

「人権のつどい日」にひろう

10月11日(火)愛媛県教育委員会人権教育課の住野秀志さんによる「これからの人権・同和教育～意識から行動へ～」という講演を聴いた。

文部科学省が「人権教育」と表記するのに対して愛媛県教育委員会は「人権・同和教育」と表記しているが、その意図するところの説明から始まった。そして「同和教育は、被差別地域以外の問題」「子どもの問題は大人の問題」など問題点を端的にとらえる視点を提示されたり、「明るい、考えて、さわやかな、楽しい、なかよく」と『アカサタナ』で参加者みんなに元気が出る人権・同和教育となることを願って、人権啓発推進者へ向けたメッセージを送った。また、「一人の一步より百人の一步」よりも「十人の十歩」と具体的に手ごたえが見える成果を、とも語られた。



瀬戸・寿子ども太鼓台宮入り

10月14日(金)の朝、瀬戸会館に集まった39人の子供たちはハッピー姿で勢ぞろい、20人ほどの保護者がそれを見守る。そこに、あいにくの雨が降り出して、太鼓台も子どもたちもビニールの衣をかぶり氏神様へ向けて出発する。太鼓台の周りは保護者の皆さんの目配り、気配りで、子どもたちの安全が図られる。太鼓の音と「ちょうおっさアじゃあ!」のにぎやかな子どもたちの声に、道々で祝儀の「お花」が待っている。その都度「東西と一ざーい、ただ今下さるお花・・・」と可愛い声でお礼のことばと口上が読み上げられる。

やがて浦戸神社に到着、神官からお祝いを受け楽しい祭りが始まった。

これからも、力強い太鼓の響きと、子どもたちのはじける笑顔に拍手を送りつづけた。



新居浜太鼓祭りを終えて

今年は、悪天候の中での太鼓台運行となりましたが、二日間、沢山の方々のお力添えで、安全運行で楽しいお祭りを過ごすことができました。

運行にあたり、組み立てから運行、解体、片付けまで、自治会や保護者の皆様のご協力により、無事に祭りを終えることができ、感謝の気持ちでいっぱいです。

今後とも、子ども太鼓台が、いい状態で運行できることを願っています。また、地域の皆様には、沢山のお花や温かいお言葉をかけていただきありがとうございました。あいにく雨の中での運行で、地区内を十分に廻りきれなかったこと、申し訳なく思っております。今後とも、子ども太鼓台を温かく見守っていただきますようお願い申し上げます。

ありがとうございました。・・・感謝・・・

子供太鼓台運営委員

資源ごみ回収にご協力を

瀬戸会館活動連絡協議会(ゆめじゅく会)では新居浜市の援助を受けて資源ごみの回収を行っています。回収品目は新聞紙、段ボール、雑誌類、古布類、アルミ缶(鉄はダメ)、牛乳パックのみとなっています。このような資源ごみがありましたらいつでも瀬戸会館まで持ってきてください。回収場所は自転車置き場の一角に設けております。収益は「ゆめじゅく会」の活動に役立てます。どうか皆様のご協力をお願いいたします。**12月4日(日曜日)9:00～ 瀬戸会館の大掃除を実施いたします。皆さんの御参加をお願いいたします。**